

ひまわり職員のひとりごと

【第3話】走り回る子ども編

一見すると「子どものわがまま」「しつけのせい」などと誤解をされてしまう子どもの行動について、ひまわり発達相談センターの職員が「ひとりごと」として解説していきます。



ひまわり職員のひとりごと

お店や道路などで走り回る幼い子どもを見掛けると、「危ない! 親は何をしているのかな?」と思ってしまいますよね?

《通りすがりの人の思い》

- ・危ないなあ、手をつないであげるだけで良いのに (☹)
- ・抱っこしてあげれば良いんじゃないの? (☹)
- ・注意もせず、周りに謝りもせず、無責任な親だなあ (☹)
- ・「元気な子ね」と言ってあげたい! (☹)



ちよつと
まって!

一見分かりにくいかもしれませんが、
そのお子さんや保護者には何か事情が
あるかもしれないのです。

《お子さんの状況》

- ・運動発達が進むと、行動範囲の広がりとともに周囲を探索するようになります。
- ・好奇心が強いお子さんは、お店の商品（カラフルなパッケージや美味しそうなお菓子）に興味を抱いて、ついそちらに引き寄せられてしまうのかもしれません。
- ・見えないところまで行くと、親が後から追い掛けてくるので“鬼ごっこ”や“かくれんぼ”をしているような楽しい気持ちになっているのかもしれません。

《保護者の状況》

- ・手をつないだり抱っこしたりしようすると大声で泣き叫び、追いかけると余計に逃げていくので、あえて距離を置いて見守るしかない状態なのかもしれません。
- ・子どもの世話をするのに頼れる人もおらず、一人で苦勞を抱えているのかもしれません。
- ・子どもを落ち着かせたいので、気分を高揚させてしまうような声はかけて欲しくないかもしれません。

「何か事情があるのかもしれない」、「あの子も何か困っているのかもしれない」といった**あたたかい目で見守る**ことは、お子さんとその家族を応援する力になります。



裏面に続く



ひまわり心理判定員

まずはお子さんの安全を確保することが最優先です。

お子さんの理解力や行動をコントロールする力の育ち具合に合わせて、予防策や対応を考えていく必要があります。

小さいうちは、簡単に背負ったり抱っこしたりすることができるかもしれないけれど、大きくなるとそれを嫌がるようになる子もいるにゃ。
買い物カートに乗せても降りたがったり、手をつないで歩いていてもそれを振り払って走っていってしまうこともあるかもしれないにゃ。
色々な工夫を試しているけれど、なかなか上手いかわなくて、保護者も困っているかもしれないにゃ？



ネコ所長



ひまわり心理判定員

お子さんによっては、

- ・分かっているもついで体が動き出してしまふ。
 - ・カートの座り心地を悪く感じたり、手をつながれる感覚が苦手だったりする。
- といった**特有の感覚**等を持っている場合もあります。

周りのお子さんと比べてしまい、「子育てがいけないのかな?」「さぼっていると
思われるかな?」…とつらい思いをされている保護者もいるかもしれませんね。



ウサギ主任

安全確保のために習慣にしたいことがあっても、嫌がっていることを無理強い
すると、ますます嫌がられてしまうという悪循環に陥ってしまう場合があるにゃ。

- ・「楽しく遊んでいる時に」手をつなぐ
 - ・カートに乗ったらまずは子どもが「行きたい方向に向かう」
- など、子どもにとってご褒美になることとセットにすることで行動形成を促す
ことにつながるの、少しずつ練習してみるのはいかがでしょうか！



ネコ所長



ウサギ主任

あとは、ちょっとでも成功したら「〇〇できたね」という具体的
な行動をすぐにほめてあげることで、成功体験の積み重ねに
つながっていけるのではないかと思います。



▲その他のエピソードは
こちらから

ひまわり発達相談センターでは、主に就学前のお子さまとその保護者（市内在住）を対象に、
相談や指導を行っています。成長・発達に心配があるときは、お気軽にご相談ください。
（電話またはFAXによる事前予約制です。）

住 所：習志野市秋津3-5-1

電話番号：047-451-2922 FAX番号：047-451-2002

